

学校名 (生徒数)	おおつしりついかだちちゅうがっこう 大津市立伊香立中学校 (36人)
--------------	---------------------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：大津市伊香立下在地町414

電話番号：077-598-2016

【研究の目的、研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を説明する問題において、ねばり強く解答しようとする姿勢が見られたが、正答率が低く、無解答の生徒もいる。日常的な事象を取り扱う課題を多く取り入れ、数学的に解釈する力とともに、理由を説明する力をつけていくことが必要である。

(2) 課題解決に向けた改善策

授業の展開の中で、「自分の考えを伝える場面」や「理由を分かりやすく説明する場面」をできるだけ設定するには、適切な課題を与え、グループで活動する授業を計画する必要がある。友だちの説明を聞いて相互に考え方を交流することや、教師の適切な評価を入れることによって「説明する力」をつけていきたい。

また、数学的活動において「協同的な学び」を適切に取り入れ、グループでの学び合いの場面から、「相手に自分の考えを分かりやすく伝える力」を培い、互いのコミュニケーション力を育みたい。

(3) 研究体制

校内研究推進委員会（校長、教頭、教務主任、研究主任）：企画・立案



授業改善推進委員会（教務主任、研究主任、各教科主任）

学力向上アプローチ事業推進委員会（校長、教頭、教務主任、数学主任）

(4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月3日（木）校内研究推進委員会：今年度の校内研究のテーマ、年間計画
- ・ 4月14日（月）校内研究全体会：今年度の活動について
2年次の学力向上アプローチ事業について
- ・ 4月22日（火）全国学力・学習状況調査実施
- ・ 4月25日（金）全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・ 5月2日（金）第1回学力向上アプローチ事業推進協議会
- ・ 5月29日（木）第1回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 5月2日（金）～29（木）全国学力・学習状況調査の分析
本校の課題について協議・検討
- ・ 6月15日（日）公開授業 全学年：ICT活用授業について
- ・ 7月3日（木）第2回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 7月7日（月）校内研究全体会：事業指定校訪問日程について
- ・ 7月24日（木）第3回学力向上アプローチ事業調査部会

- ・ 8月12日（火）第4回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 8月26日（火）校内研究全体会：「授業規律と授業力について」
授業改善への取組について
大津市授業力向上研修「授業改善へのステップ」
- ・ 10月21日（火）学力向上アプローチ事業訪問：研究授業 1年数学
校内研究全体会：授業研究会（協同的な学びについて）
- ・ 11月6日（木）学力向上フォーラム
- ・ 11月18日（火）学力向上アプローチ事業訪問：研究授業 3年数学
授業改善推進委員会：授業研究会（個別指導について）
- ・ 11月21日（金）校内研究会：研究授業 3年社会
（言語活動・コミュニケーション能力の育成）
- ・ 12月11日（木）学力向上アプローチ事業訪問：研究授業 2年数学
授業改善推進委員会：授業研究会（少人数の授業）
- ・ 2月18日（水）学力向上アプローチ事業推進委員会：今年度の反省
- ・ 3月18日（水）校内研究全体会：今年度のまとめ

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①グループでの活動を取り入れた数学の授業

身近な1次方程式の問題を、自分で取り組んだ後、4人のグループで教え合い、グループで問題解決を目指していく。互いに納得するまで交流することにより、自分の考えを工夫して伝える機会を多く取り入れ、コミュニケーション能力を培うことができた。



②説明を共有し、考えをまとめ発表する授業

各授業において、「なぜ、そう思うのか」「その根拠を級友にわかりやすく説明する」場面を設定し、ねばり強く発表を行う。その結果、自分では分かっている、それを級友に伝えることの難しさについて考えることができ、数学的な語句や表現を用いて説明する力を培うことができる。



③多様な考えをまとめるノート指導

板書をただノートに写すだけでなく、級友の考えをノートにまとめ事後に活用する。書くことで、級友の意見を確認し、自分の考えを整理することができ、相手に伝えやすくなる。

④「めあて」の確認

各授業において、「本時のめあて」を確認し、終わりには、めあてが達成できたかを振り返る時間をとることにより、主体的に授業に取り組む姿勢を養うことができた。

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

本研究も2年目になり、全国学力・学習状況調査の自校での分析や検討が定着した。これまで「説明する問題」に対し無解答であった生徒が、何らかの解答を書き、「課題に取り組む意欲」が高まったことは大きな成果である。

(2) 課題等

どの授業においても、適切な課題を与えることが最も重要であることから、グループでの話し合い活動に適した課題設定を今後とも研究し、教員相互で検討し共有していく必要がある。